

森林を造り、未来を創る

～人が輝く森林未来都市しもかわ～

平成25年9月3日

北海道下川町
環境未来都市推進本部

下川町の概要



スキージャンプ



アイスカンドル



大木伐採（昭和10年頃）



Future City Shimokawa

人口: 3,559人
世帯数: 1,801世帯
(25年3月31日現在)
面積: 644.2km²
(森林面積: 579. Km²)

サステナブル森林経営

- ・昭和28年 国有林を取得 1,221ha
- ・平成6年～15年国有林取得 1,902ha

一定面積の植林を半世紀継続

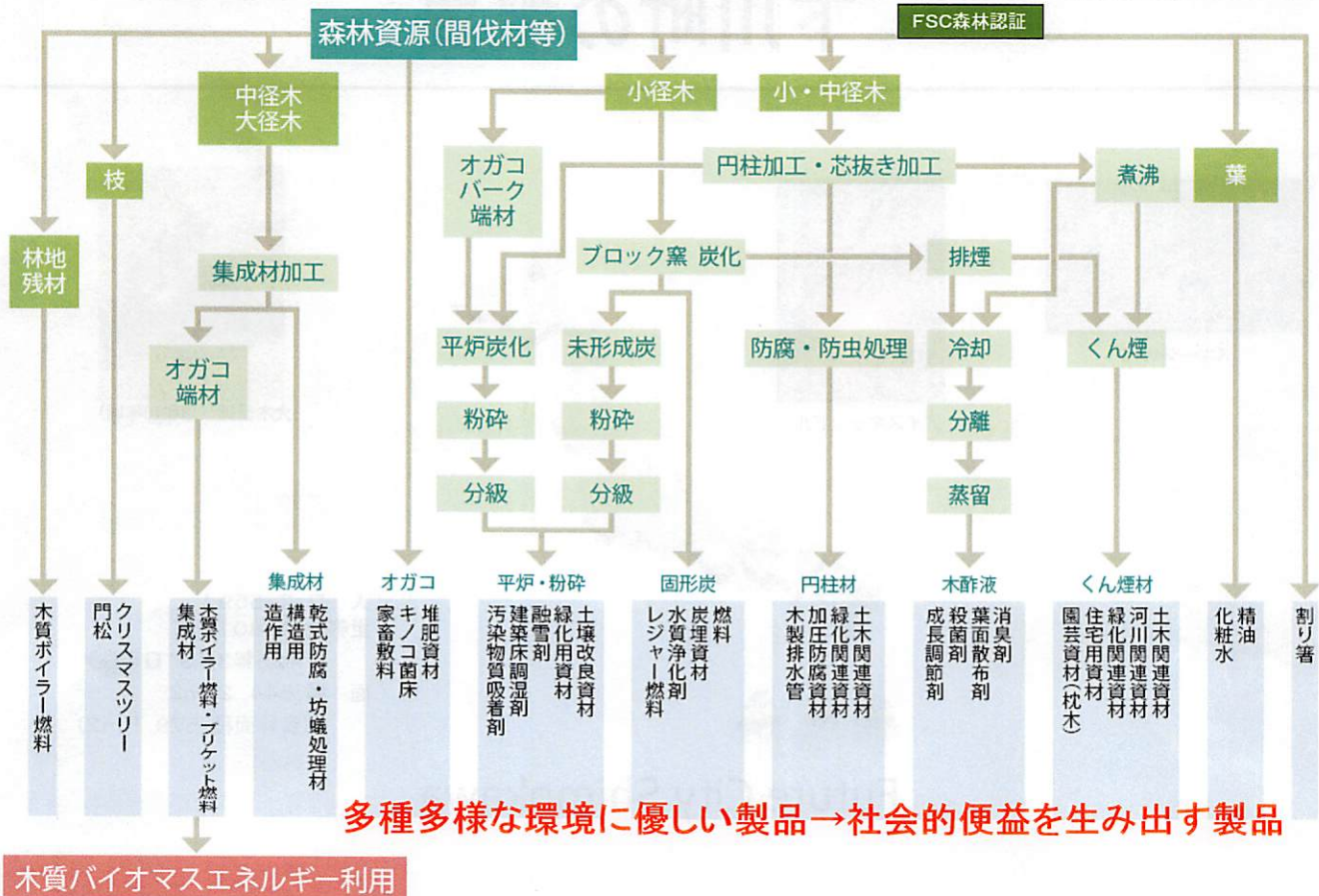
サステナブルな森林づくりを通じて

経済の活性化、雇用確保を図ってきた

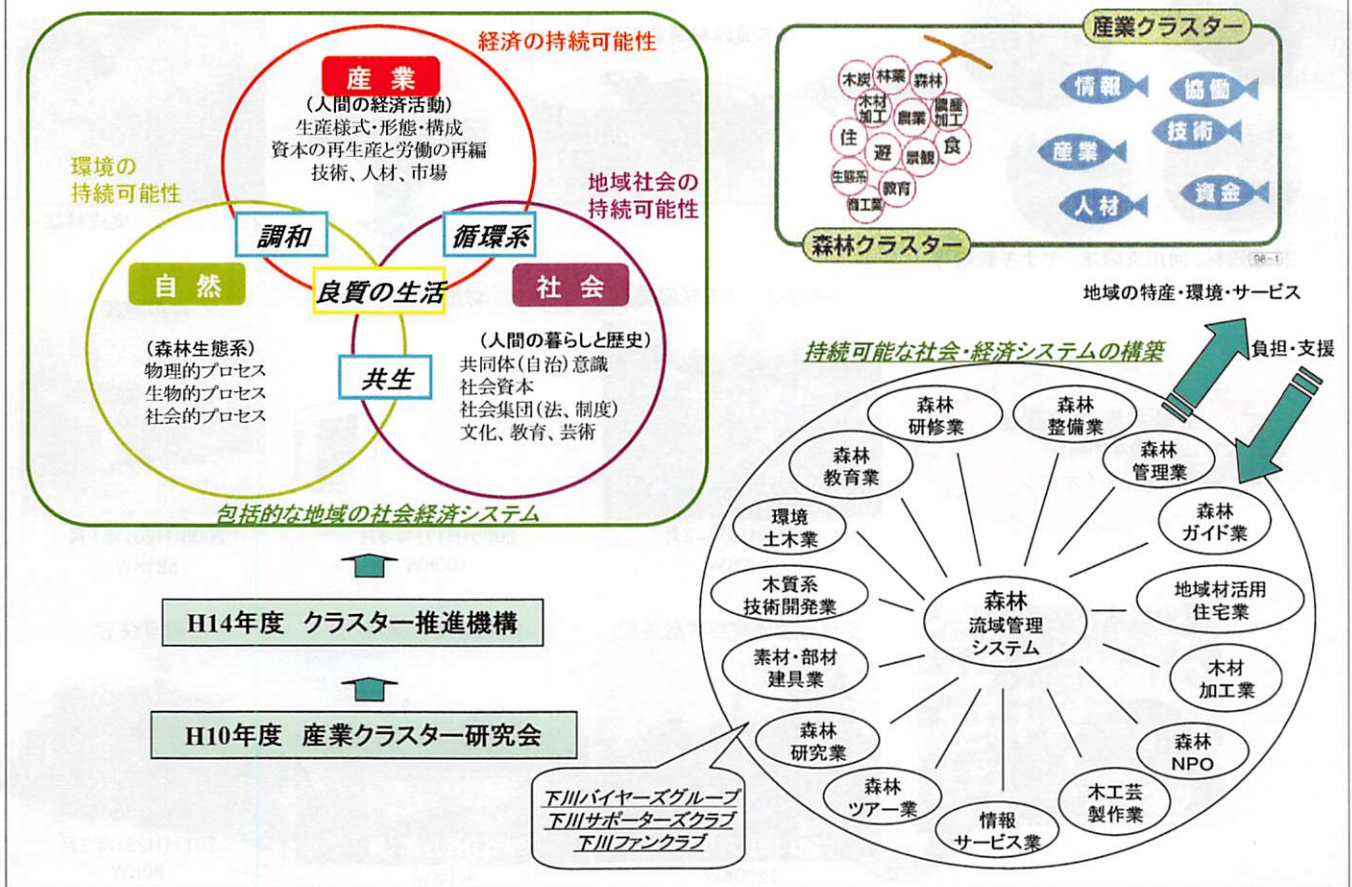
林業システム革新→サプライチェーン



ゼロエミッション資源活用



森林総合クラスターのめざす姿(新たな展開)



下川町の発展ステージ



公共施設における木質バイオマスエネルギー利用



林地残材、河川支障木、ヤナギ栽培等

木質原料製造施設



供給



集成材端材

全公共施設の暖房
約42%が
木質バイオマス

公共温泉「五味温泉」



2004(H16)年3月
180KW

幼児センター



2005(H17)年3月
100KW

育苗施設



2008(H20)年1月
581KW



役場周辺地域熱供給施設



2010(H22)年3月
1200KW

高齢者複合施設



2011(H23)年3月
460KW

町営住宅



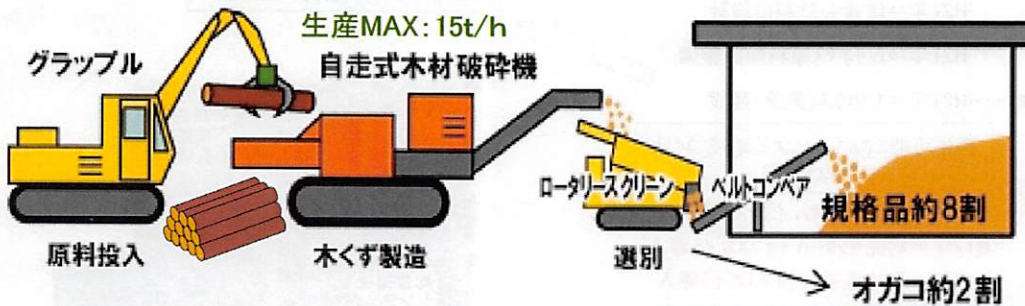
2011(H23)年3月
80KW

木質原料製造施設

施設概要 面積:9,790m²(原料保管量3,000t)

建物:トラックスケール、機械格納庫、原料保管庫320m²(鉄骨平屋建)

規格:サイズ2インチ、含水率50%以下



H23年度
1,000t生産



H21年10月 下川エネルギー供給協同組合設立
H21~22年度 町直営(臨時2名雇用)
H23年度 協同組合に業務委託
H24年度 協同組合に指定管理
指定管理料として、町に180万円を納入

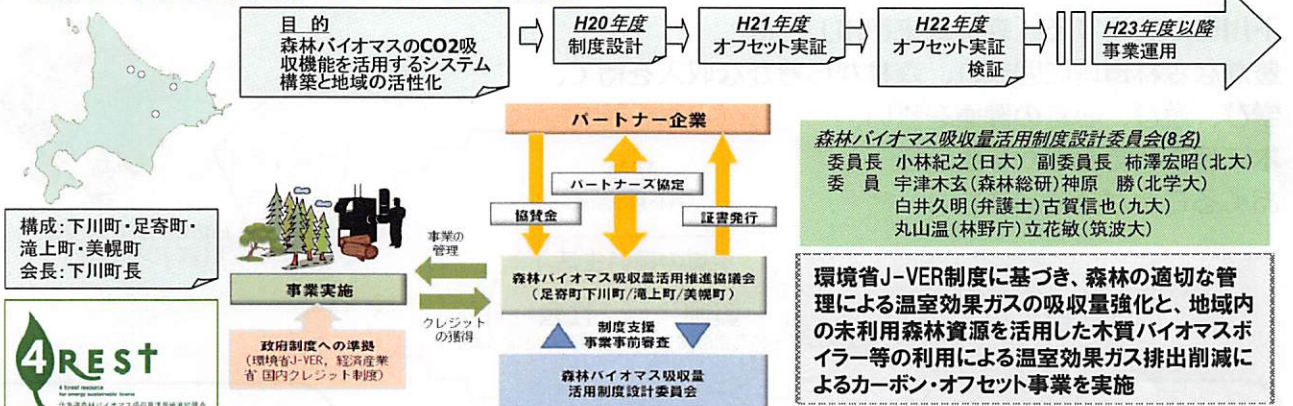


林地残材収集



企業・都市との連携モデル①

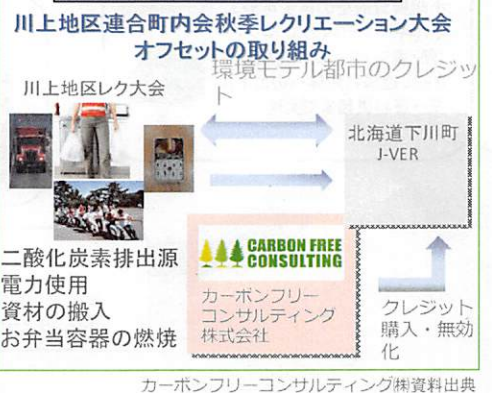
【森林バイオマス活用カーボンオフセット実証】



- パートナー企業・団体との協定**
- H21. 4.20 more trees(代表坂本龍一)と基本調印
 - H21. 8.10 (株)JCBと基本協定調印
 - H22. 3.11 日本野球機構と基本協定調印
 - H22. 3.30 (株)伊豆倉組と基本協定調印
 - H23. 5.11 中道リース(株)と基本協定調印
 - H24. 3.19 サッポロビール(株)と基本協定調印



環境モデル都市 横浜市との連携



企業・都市との連携モデル②

【プラチナ企業の森】

町内の森林を活用した地域活性化を図るため、企業・団体等と「プラチナ企業の森」協定を締結し、町有林の森林整備・保全活動等を推進しています。

実績：日経BP環境経営フォーラムと協定締結（2010.7）



【企業向けツアー】

下川町の循環型森林経営や森林バイオマス等を活用した低炭素化にむけた取組を都心の企業の担当者等に案内し、更なる連携へとつなげるためのツアーを実施しています。



【大学等研究機関との連携】

低炭素化、循環型社会構築をはじめとする持続可能なまちづくりのモデル構築にむけ、人的交流とともに地域密着型の研究をはじめしています。

実績：北海道大学サステナビリティ学教育研究センター（CENSUS）との連携協定（2011.2）



【都市との新しい地域間連携】

環境モデル都市のつながりやカーボン・オフセット等から発展した新しい連携として、地域産品の流通拡大や子どもたちの交流促進にむけた取組みをはじめています。

実績：東京都港区との協定（2011.2）

「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」
横浜市戸塚区との連携協定（2011.8）



東京都港区との協定

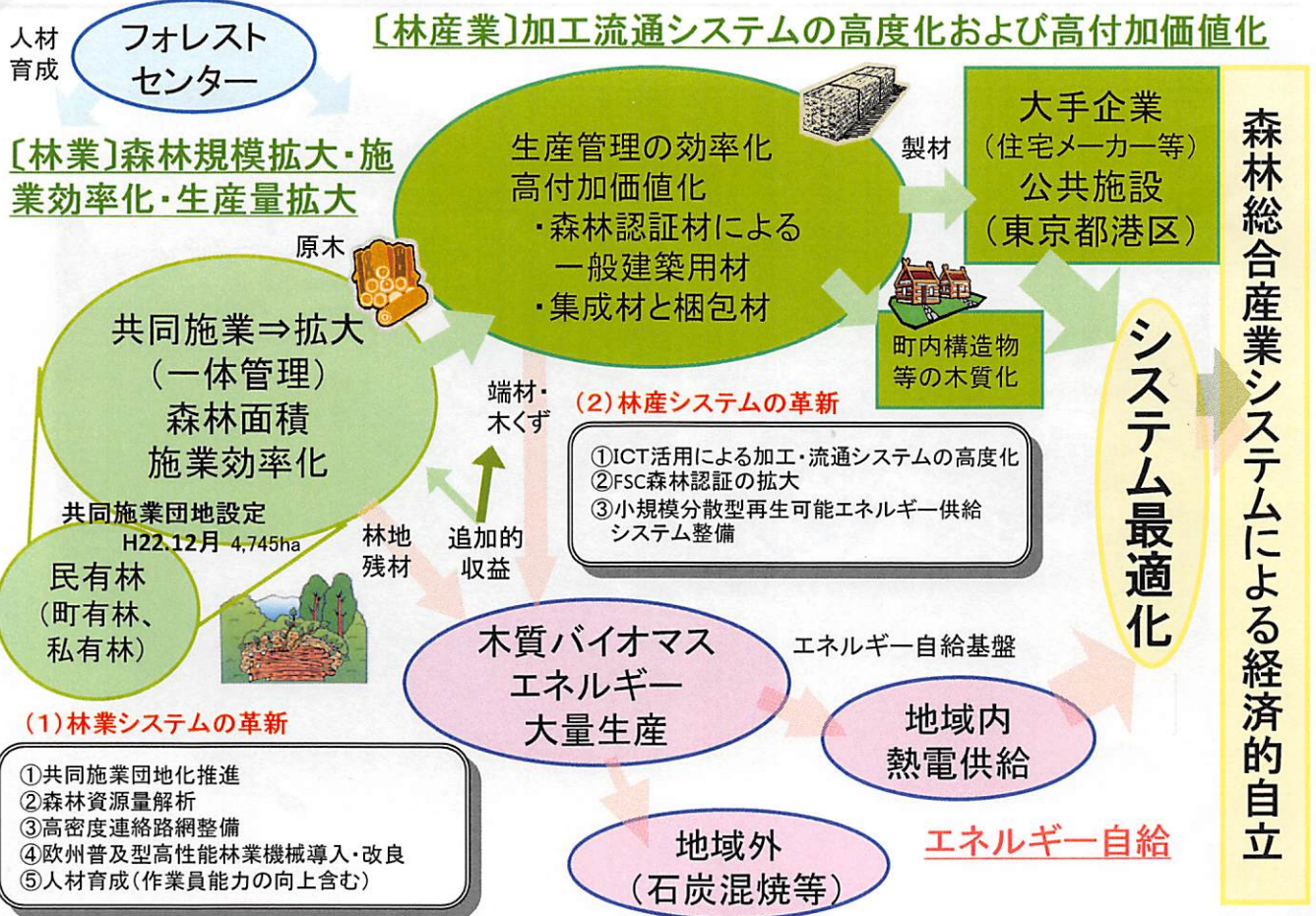


人が輝く森林未来都市しもかわ

下川町が実現する「森林未来都市」とは、豊かな森林環境に囲まれ、森林から豊かな収入を得て、学び、遊び、心身の健康を養い、木に包まれた心豊かな生活をおくることができるまち



森林総合産業システムによる経済的自立



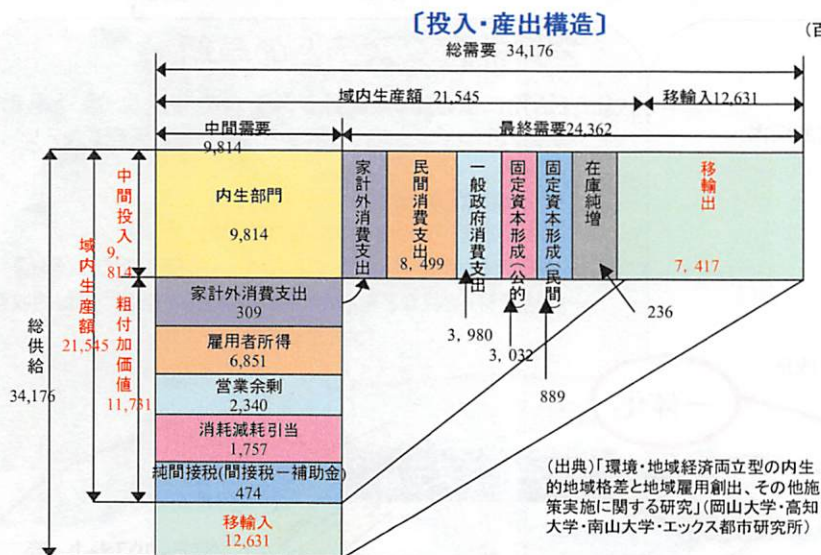
林業・林産業の最大効率化・高付加価値化



一の橋バイオビレッジ構想(集住化)



下川町の経済構造(産業連関表)



〔投入・産出構造〕

☆域内生産額は215億円

☆生産活動を行うために使用した原材料額は98億円で、粗付加価値額は117億円

☆域際収支は52億円移入超過（貿易赤字）※移輸出74億円-移輸入126億円

☆この移輸入超過分は域外へマネー流出

〔各産業生産額・域際収支〕

☆域際収支黒字は「林産業」と「農業」（移輸出額の68%）

☆域際収支赤字は「石油等製品」は△7.5億円、「電力」は△5.2億円など

(百万円) **〔各産業生産額・域際収支〕** (百万円)

	域内生産額	移輸出計	移輸入計	域徴収支
農 業	2,625	2,393	-606	1,787
林 業	541	440	-803	-363
漁 業	0	0	-65	-65
漁 業	0	0	-62	-62
食 料 品 製 造 業	489	248	-1,237	-990
機 械 工 業 製 品	0	0	-180	-180
装 材 ・ 木 装 品	2,758	2,652	-335	2,317
木 質 パ イ オ ャ ス	10	0	0	0
削 滅 ク レ ジ ャ ッ ト	2	2	0	2
ク レ ジ ャ ッ ト サ ー ビ ス	0	0	0	0
家 具 ・ 装 備 品	0	0	-50	-50
パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品	0	0	-116	-116
印刷 ・ 製 版 ・ 製 本	31	19	-77	-58
化 学	14	8	-623	-619
石 油 ・ 石 炭 製 品	0	0	-745	-745
ゴ ム 製 品	0	0	-44	-44
な め し 革 ・ 手 皮 ・ 同 製 品	0	0	-34	-34
陶 業 ・ 土 石 製 品	0	0	-204	-204
鉄 鋼	0	0	-124	-124
非 鉄 金 属	0	0	-46	-46
金 属 製 品	34	16	-331	-316
一 般 機 械	0	0	-157	-157
電 気 機 械	0	0	-410	-410
輸 送 機 械	0	0	-367	-367
精 密 機 械	0	0	-67	-67
そ の 他 の 製 造 品	0	0	-293	-293
建 設	3,623	0	0	0
実 力	119	0	-522	-522
商 業	1,704	461	-1,543	1,083
金 融 ・ 保 険	206	1	-574	-573
不 動 産	1,508	11	-141	-130
運 輸	590	201	-733	-532
通 信 ・ 放 送	453	33	-39	-5
調 査 ・ 情 報 サ ー ビ ス	67	35	-287	-251
公 務	2,042	0	0	0
教 育 ・ 研 究	740	20	-147	-127
医 療 ・ 保 健 ・ 社 会 保 障 ・ 介 護	1,845	0	-130	-130
そ の 他 の 公 共 サ ー ビ ス	424	225	0	225
対 事 業 所 サ ー ビ ス	790	225	-777	-552
娯 楽 サ ー ビ ス	0	0	-258	-258
飲 食 店	401	61	-181	-120
そ の 他 の 対 個 人 サ ー ビ ス	573	365	-320	45
事 務 用 品	27	0	0	0
分 担 不 明	127	1	-3	-2
域 内 生 産 額	21,545	7,417	-12,633	-5,214

エネルギー自給による雇用創出とリスクマネジメント

◇ 化石燃料価格変動、オイルショックのリスク回避、町民負担軽減、危機に対する安心提供

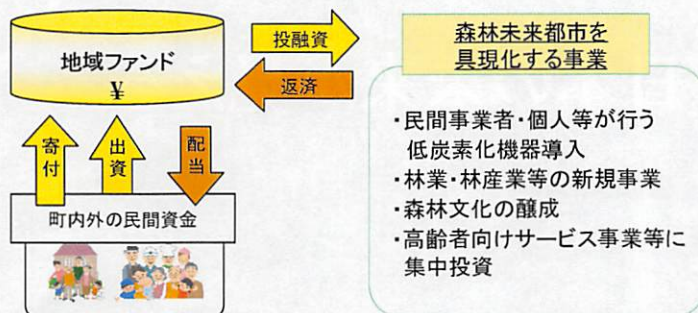
◇ エネルギー購入費の町内循環と雇用創出



永続的な価値創造のための基盤整備 ～価値創造～

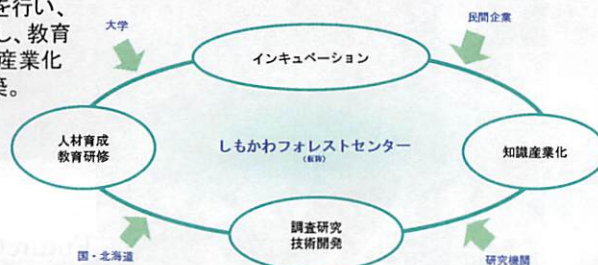
① 地域ファンド

「森林未来都市」モデルを具現化する取組へ投資するための自立型資金の確保。寄付、公募債、投資商品等を幅広く想定。



② しもかわフォレストセンター(仮称)

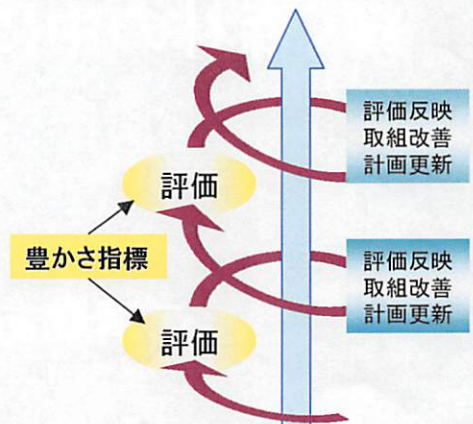
地域の資源に即した仕組みや機器の改良・開発を行い、外部との連携を構築し、教育研修や起業化、知識産業化までを担う機関を構築。



③ 豊かさ指標

「誰もが暮らしたいまち」の実現度を評価、定期的な取組改善を実施。

インフラ、経済、低炭素等に係る多様な評価指標を融合し、地域性を加味。



下川町「自然資本価値評価制度構築」宣言

100年後を見据えたアプローチ

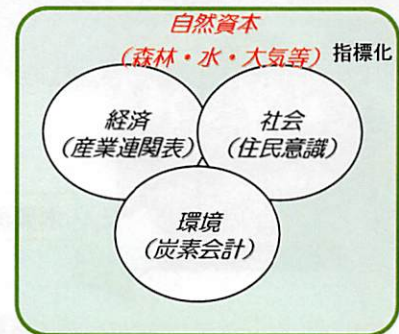
- ①自然資本のコスト認識が必要
- ②「自然資本」の視点・・・世界的潮流
(2012 Rio+20→グリーン経済へ移行・自然資本宣言
→GDP・企業会計へ自然資本コストを反映
→「需要側」である金融・産業界動き)
- ③下川町は「自然資本」の価値化にアプローチ
(日本初)
- ④平成24年度～自然資本価値評価制度設計スタート



未価値化資本⇒「定量的に評価し価値化」

豊かさ指標

〔環境未来都市の実現度を測定・評価〕



自然資本価値評価制度

〔自然資本の評価・管理システム〕



輝く森林の中に、日本の未来が見える。

ご清聴ありがとうございました